

大分県における酪農経営発展の経営的条件

第1報 酪農協と生産立地

三 好 担

Miyoshi, H. Agricultural Condition for Dairy-farming in Oita Prefecture
I. On the Public Association of Dairy and Pracce of Product

1. 目的 酪農発展の初期段階における地域的发展の異相をはあくし、その特異性を経営内外の条件として吟味検討したいと考え、先づ酪農協と生産立地について全県的な観点から判断を下したのである。之は町村及部落調査の準備資料と考える。

2. 概況 昭和10~14年に比較して昭和28~29年度の酪農発展速度は、郡市によつて次の3群となる。

第1群 その発展速度が県平均(5.5倍)以上のもの 大野郡, 中津市, 速見郡, 宇佐郡, 大分郡

第2群 同3倍以上のもの 日田郡, 玖珠郡, 北海部郡, 下毛郡, 南海部郡, 東国東郡, 日田市

第3群 同3倍以下のもの 直入郡, 西国東郡, 津久見市, 大分市, 別府市, 佐伯市, 臼杵市

3. 要約 ① 酪農協は第1群に大分県酪, 豊前酪農が存在し、第2群に日田酪農, 第3群に竹田酪農協が存在する。大分県酪農協の集乳, 散乳範囲は13郡

市にも及ぶ県下第一の酪農協で、年間抜乳量17,000石で他の三酪農協の合計量の僅に3倍に当る。なお、第1群の発展と大分県酪農協の発展とは密接な関係が存在すると考えられる。

② 酪農協の分立は特に地形複雑な県下では経済的集乳範囲の確立に容与し、引いては一工場を中心としての乳牛頭数の密度を高めた事ともなり、さらに愚後牛との関係から山地酪農の発展のない限り、生乳酪, 原料乳酪, 更に酪製品酪等々の成立を必要としない。

③ 第1群は第2群, 第3群に比較して次の点で酪農経営発展の優位性をもつ

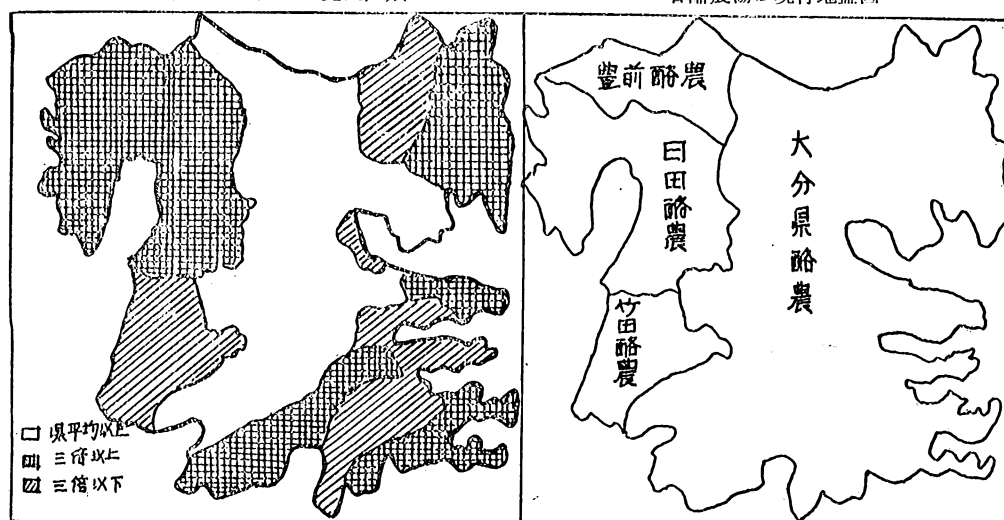
④ 経営耕地面積, 専業農家比率に於て遙に高い。

⑤ 交通至便, 大市場を持つ。

⑥ 交通地位の良さが商品化傾向を助長し、革新的気運を醸成し、勢い生産性の向上をもたらす。

酪農発展速度より見た分類

各酪農協の現行地盤図



* 大分県農業試験場